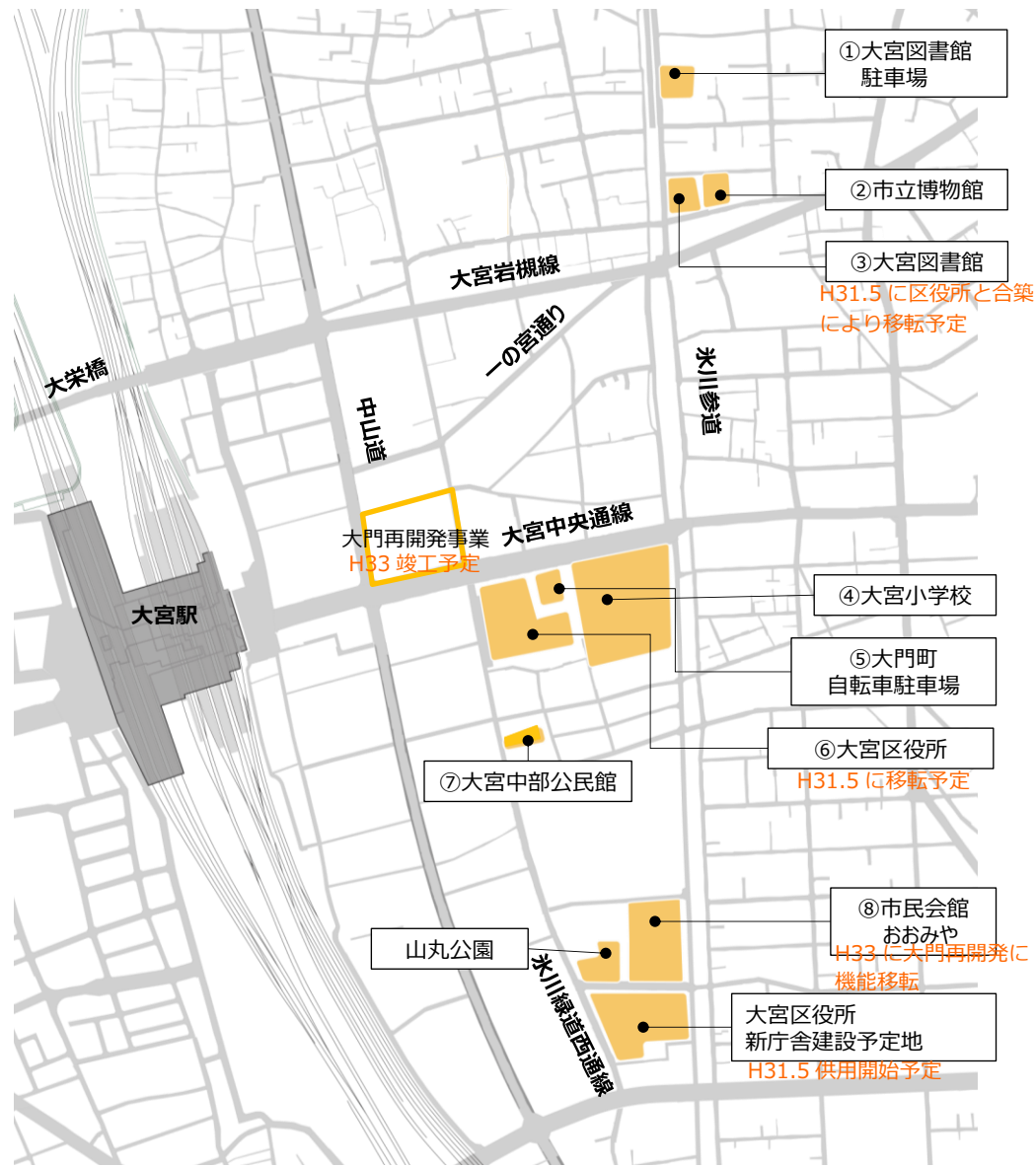


目次

- ・ 別表A：事業対象地の概要
- ・ 別表B：対象施設の概要
- ・ 資料①：大宮駅東口周辺 公共施設再編
／公共施設跡地活用 全体方針（原案）H29.8
- ・ 資料②：大宮駅グランドセントラルステーション化
構想【骨子（案）】H29.11
- ・ 資料③：さいたま市における東日本連携に向けた取組み
例)「東日本連携周遊ルート・モデル・コース」

- ・ 別表A：事業対象地の概要
 - ・ 別表B：対象施設の概要
 - ・ 資料①：大宮駅東口周辺 公共施設再編
／公共施設跡地活用 全体方針（原案）H29.8
- ・ 資料②：大宮駅グランドセントラルステーション化
構想【骨子（案）】H29.11
- ・ 資料③：さいたま市における東日本連携に向けた取組み
例）「東日本連携周遊ルート・モデル・コース」

大宮駅東口周辺公共施設再編の対象施設

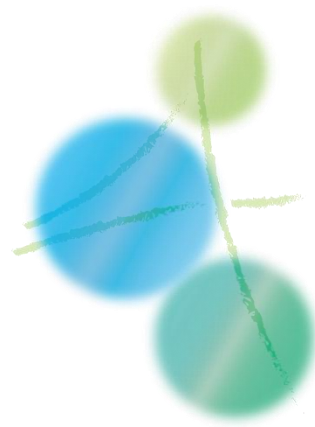


4. 事業対象地の概要			
対象地	大宮区役所跡地	市民ホール（市民会館おおみや）跡地	市立大宮図書館跡地
			
①所在地	さいたま市大宮区大門町3-1 (JR大宮駅東口徒歩5分)	さいたま市大宮区下町3-47-8 (JR大宮駅東口徒歩15分)	さいたま市大宮区高鼻町2-1-1 (JR大宮駅東口徒歩15分)
②敷地面積	7,124㎡	6,829㎡	2,534㎡
③土地利用上の制約	商業地域 準防火地域 容積率400%、建蔽率80% 市営駐輪場(1,280㎡、S61年) と市立小学校(17,401㎡、S30年)に隣接	商業地域 準防火区域 容積率400%、建蔽率80% 都市公園(2,753㎡)と区役所新庁舎(H31.5供用開始予定、7,606㎡)に隣接	第一種居住地域 容積率200%、建蔽率60% 風致地区(一部) 市立博物館(1,571㎡、S55年)に隣接
④所有者	さいたま市(一部借地)	さいたま市	さいたま市
⑤周辺施設等	商業店舗(物販、飲食) 金融機関をはじめとした業務関連施設の集積 市立小学校、市営駐輪場等	区役所、図書館 都市公園、 住宅を主体に店舗(主に飲食)が点在	市立博物館 武蔵一宮氷川神社 住宅を主体に店舗(主に飲食)が点在
⑥対象地周辺の一般的なイメージ	商業地であるとともに金融機関の支店が集積するエリア	武蔵一宮氷川神社参道のけやき並木沿いに公共施設と都市型住宅が混在するエリアで、飲食を中心とした小規模店舗が増加傾向	武蔵一宮氷川神社参道のけやき並木沿いの閑静な立地で、大宮を象徴する風景を演出
⑦その他 上記項目以外の情報 特徴、留意すべきこと等	大宮区役所は現位置からH31.5に移転予定 本敷地・小学校・駐輪場(合計25,805㎡)を周辺民有地も含めた今後の土地活用全体方針(原案)をH29.8に公表	市民ホール(市民会館おおみや)はH33竣工予定の駅前再開発に機能移転予定 隣接する都市公園も含めた今後の土地活用全体方針(原案)をH29.8に公表	新図書館は大宮区役所との合築によりH31.5に供用開始予定 隣接する市立博物館も含めた今後の土地活用全体方針(原案)をH29.8に公表

- ・ 別表A：事業対象地の概要
- ・ 別表B：対象施設の概要
- ・ 資料①：大宮駅東口周辺 公共施設再編
／公共施設跡地活用 全体方針（原案）H29.8
- ・ 資料②：大宮駅グランドセントラルステーション化
構想【骨子（案）】H29.11
- ・ 資料③：さいたま市における東日本連携に向けた取組み
例）「東日本連携周遊ルート・モデル・コース」

5. 対象施設の概要						
対象地	大宮区役所跡地		市民ホール（市民会館おおみや）跡地		市立大宮図書館跡地	
5-1. 建物	既存	整備後（予定）	既存	整備後（予定）	既存	整備後（予定）
①施設名称	大宮区役所	未定	市民会館おおみや	未定	大宮図書館	未定
②施設の延床面積	12,897㎡	未定	7,315㎡	未定	3,521㎡	未定
③建物の構成 構造、階数等	RC造 地上7階 地下2階	未定	RC造 地上3階 地下1階 (地階は小ホール)	未定	RC造 地上3階 地下1階	未定
④主な施設の内容 導入機能	<ul style="list-style-type: none"> 区役所 建設事務所（土木系事務所） 都市公園管理事務所 (開発/公園系事務所) 保健センター 	未定	<ul style="list-style-type: none"> 大ホール（1,370席） 小ホール（274席） 集会室 和室 等 	未定	<ul style="list-style-type: none"> 図書室、貸出室 展示ホール 自由読書室（自習室） 視聴覚ホール（90席）等 	未定
⑤運営状況 運営主体、事業手法等	市直営	未定	指定管理	未定	指定管理	未定
⑥その他 上記項目以外の情報 特徴、留意すべきこと等	H31.5に市立大宮図書館と 合築により移転予定		H33竣工の大門再開発事業 に機能移転予定		H31.5に大宮区役所と合築 により移転予定	
5-2. インフラ系 上下水道、道路等	既存	整備後（予定）	既存	整備後（予定）	既存	整備後（予定）
①施設名称	—	—	—	—	—	—
②規模、能力等	—	—	—	—	—	—
③運営状況 運営主体、事業手法等	—	—	—	—	—	—
④その他 上記項目以外の情報 特徴、留意すべきこと	—	—	—	—	—	—

- ・ 別表 A : 事業対象地の概要
- ・ 別表 B : 対象施設の概要
- ・ 資料① : 大宮駅東口周辺 公共施設再編
／公共施設跡地活用 全体方針 (原案) H29.8
- ・ 資料② : 大宮駅グランドセントラルステーション化
構想【骨子 (案)】 H29.11
- ・ 資料③ : さいたま市における東日本連携に向けた取組み
例) 「東日本連携周遊ルート・モデル・コース」



大宮駅東口周辺 公共施設再編／公共施設跡地活用 全体方針（原案）

～大宮駅周辺地域戦略ビジョンを実現するための地区別整備計画の策定に向けて～

序. はじめに	1
1. 大宮駅東口のまちの特徴.....	5
2. 大宮駅東口周辺における公共施設等の現状	6
3. 公共施設再編による「連鎖型まちづくり」.....	7
4. 公共施設再編／公共施設跡地活用の方針	8
5. 地区別整備の推進に向けた進め方.....	13
巻末：用語解説	

平成29年8月

大宮駅東口周辺公共施設再編推進本部

序. はじめに

(1) 検討の背景

大宮駅周辺地域では、平成22年に策定した「大宮駅周辺地域戦略ビジョン¹」（以下、「戦略ビジョン」という。）に基づき、おもてなしあふれる東日本の顔となるまちを目指して、市民と一体となってまちづくりを推進しています。戦略ビジョンの策定から約7年が経過し、大宮駅東口周辺では大宮区役所や市民会館おおみや、大宮図書館などの移転が決定するなど、具体的なまちづくりが動き出そうとしています。こうした取組みは、戦略ビジョンに位置づけられている優先プロジェクト「公共施設再編による連鎖型まちづくり」の一環として進めているものです。

また、平成27年度に策定された首都圏広域地方計画²では、「大宮」が東日本の玄関口として位置づけられ、多種多様なヒト、モノが集結する対流拠点として、ビジネス・まちづくりが融合した施策が求められています。

大宮駅東口周辺に点在する耐震性や老朽化などの問題を抱える公共施設を集約・複合化することで、生み出された用地を連鎖的にまちづくりに活用し、駅周辺の再開発や基盤整備などと連携して戦略ビジョンの実現と、東北圏・北陸圏・北海道連結首都圏対流拠点の形成を目指します。

具体的には、大宮区役所の移転、大宮図書館との合築・複合化により、埼玉県大宮合同庁舎の敷地に移転します。これは、大宮駅とさいたま新都心駅のちょうど中間の位置に地域サービスの機能を集積し、まちの奥行きを深めていくとともに、さいたま新都心駅周辺地域との継ぎを強化することがねらいです。

また、駅前のまとまった公共用地である大宮区役所の敷地を、駅周辺のまちづくりを進めていく起点として積極的に活用します。これにより、駅周辺の更なる賑わいの創出や都市機能の強化を図り、まちの魅力を高めていくことがもう一つのねらいです。

今後の取組みとして、移転が決まっている大宮区役所や市民会館おおみやなどの公共施設跡地の利活用の方針や、将来の方向性が決まっていない大宮駅東口周辺の公共施設の方針を定めるなど、戦略ビジョンを実現していくための具体的な行動計画（アクションプラン）を全体方針として定めていく必要があります。

地域の魅力を活かし、新たな魅力や価値を創出していくためには、市民の財産である公共施設、公共用地を積極的かつ戦略的に活用しながらまちづくりを進めていく必要があります。今後の具体的な整備計画策定にむけ、大宮駅東口のまちの特徴をしっかり理解するとともに、市民の意見・専門家の意見を積極的に取り入れながら進めることが大変重要です。

本方針は、こうした大宮を取り巻く環境を踏まえ、大宮駅周辺地域を戦略ビジョンで掲げる将来像を実現していくための具体的な方針を位置づけ、市民・事業者の皆様と行政との協働によるまちづくりに全力で取り組んで行くことを目的としております。

(2) 本方針の位置づけ

本方針は、さいたま市総合振興計画、さいたま市都市計画マスタープランを上位計画とし、平成27年度に策定された国土形成計画³及び首都圏広域地方計画における大宮に関するプロジェクトとともに、大宮駅周辺地域戦略ビジョンの実現に向けて、詳細な方針を示すものです。

戦略ビジョンでは、優先プロジェクトを推進していくため、「地区別の整備計画」や「ガイドライン」を策定していくこととされています。本方針は、大宮駅東口周辺における公共施設とその跡地を中心とした地区における整備を早期に実現するため、施設及び用地を管理するさいたま市としてその方針を明らかにし、市民や専門家の意見を積極的に取り入れ、市民と共有できる方針として策定するものです。

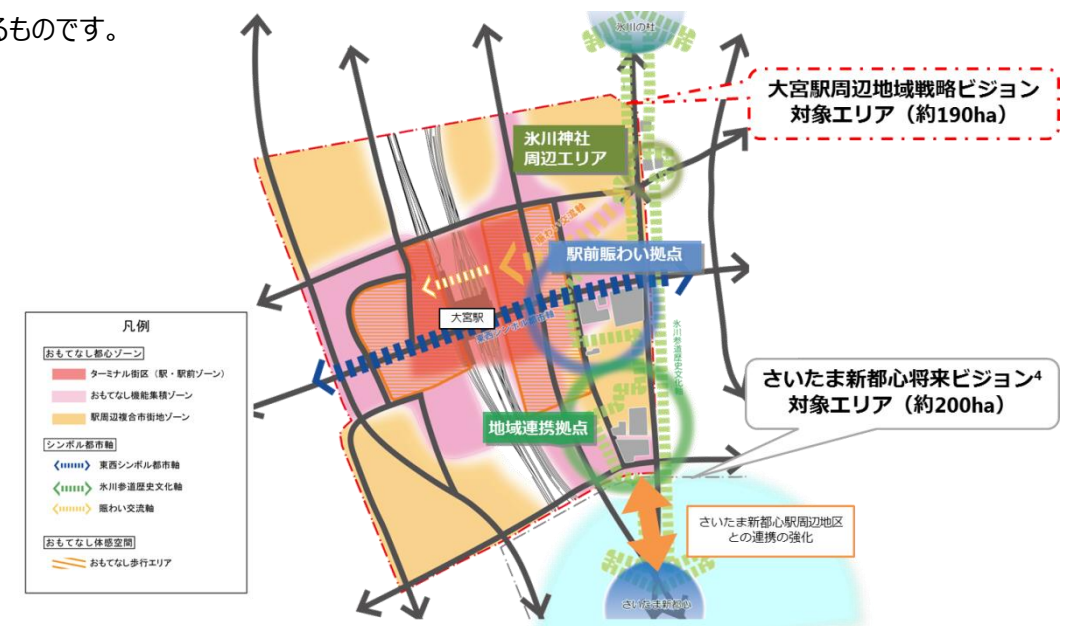


図 本方針の対象範囲

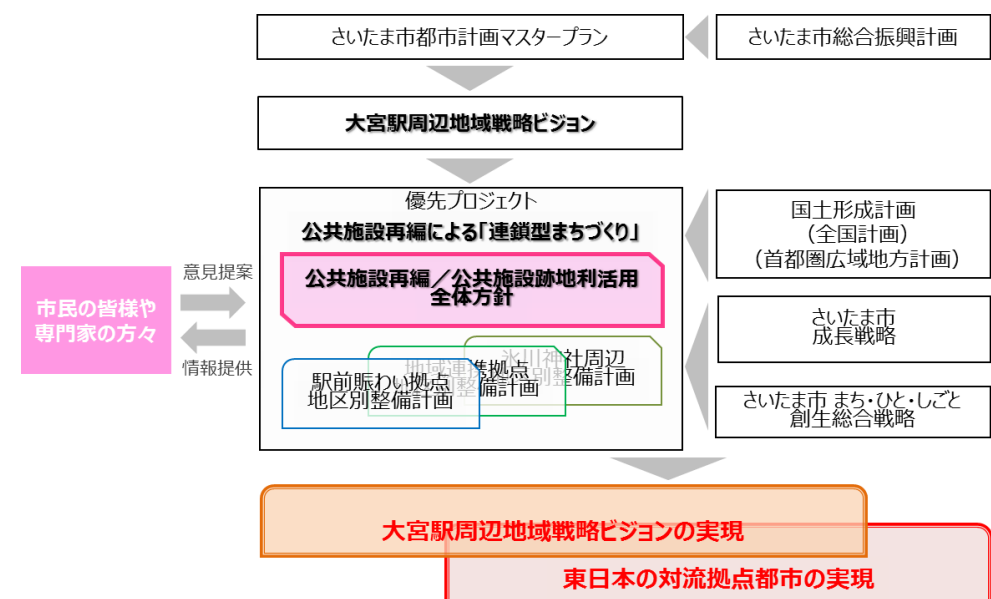


図 本方針の位置づけ

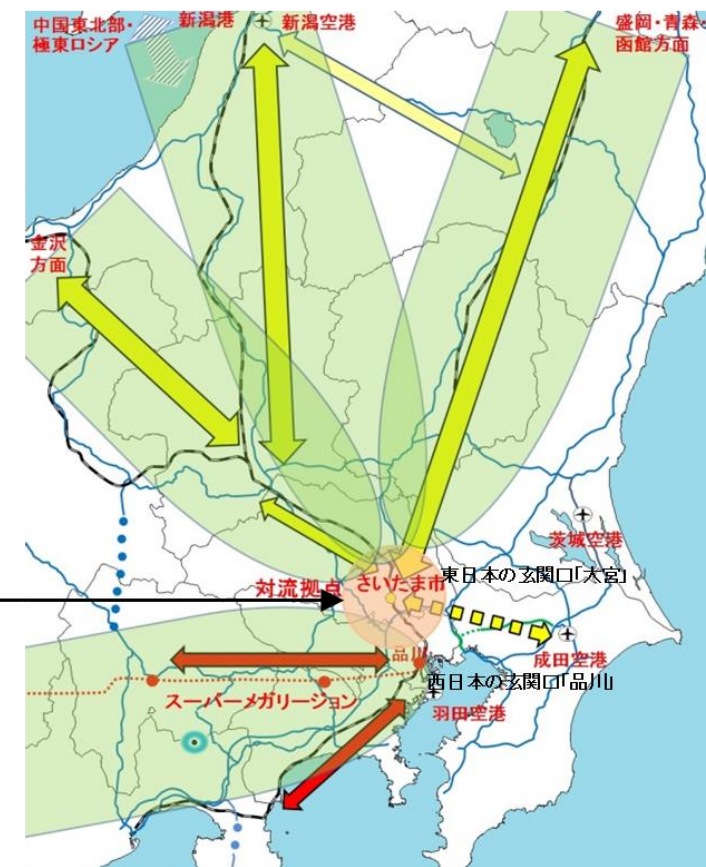
(3) 東日本対流拠点としての役割の確認

平成28年3月に国土交通大臣決定された首都圏広域地方計画では、大宮駅周辺地域とさいたま新都心駅周辺地域が一つの対流拠点として位置づけられ、西日本の玄関口となる「品川」に並ぶ、東日本の玄関口として、東日本を連結する拠点としての機能を強化していくこととされています。

そのため、首都圏広域地方計画に位置づけられた東日本の対流拠点としての役割をしっかりと確認し、東日本をリードする都市として、地域全体でまちづくりに取り組んでいくことが求められています。

東北圏・北陸圏・北海道連結首都圏対流拠点の創出プロジェクト (首都圏広域地方計画)

【東日本の玄関口「大宮」の機能強化 イメージ図】



出典：「首都圏広域連携シンポジウム」2016.2.25

東日本の対流拠点都市の形成

東日本の各圏域と連携・交流する拠点として機能の集積と強化を図る「大宮駅周辺地域」
 災害時における広域的なバックアップ拠点として機能強化を図る「さいたま新都心駅周辺地域」
 2つの地域のまちづくりの連携によって、東日本の対流拠点都市の実現を目指します。

(4) 大宮駅周辺地域におけるまちづくりの取組み

大宮駅周辺地域戦略ビジョンに掲げられるまちづくりの将来像や、首都圏広域地方計画の位置づけを実現するため、大宮駅周辺地域では多くのまちづくりの計画が進められています。

その中で、大宮駅周辺地域では、駅を中心とした「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」や大宮駅西口周辺のまちづくりとともに、「公共施設再編による連鎖型まちづくり」を推進し、都市としての機能強化や大宮の魅力の向上を目指します。

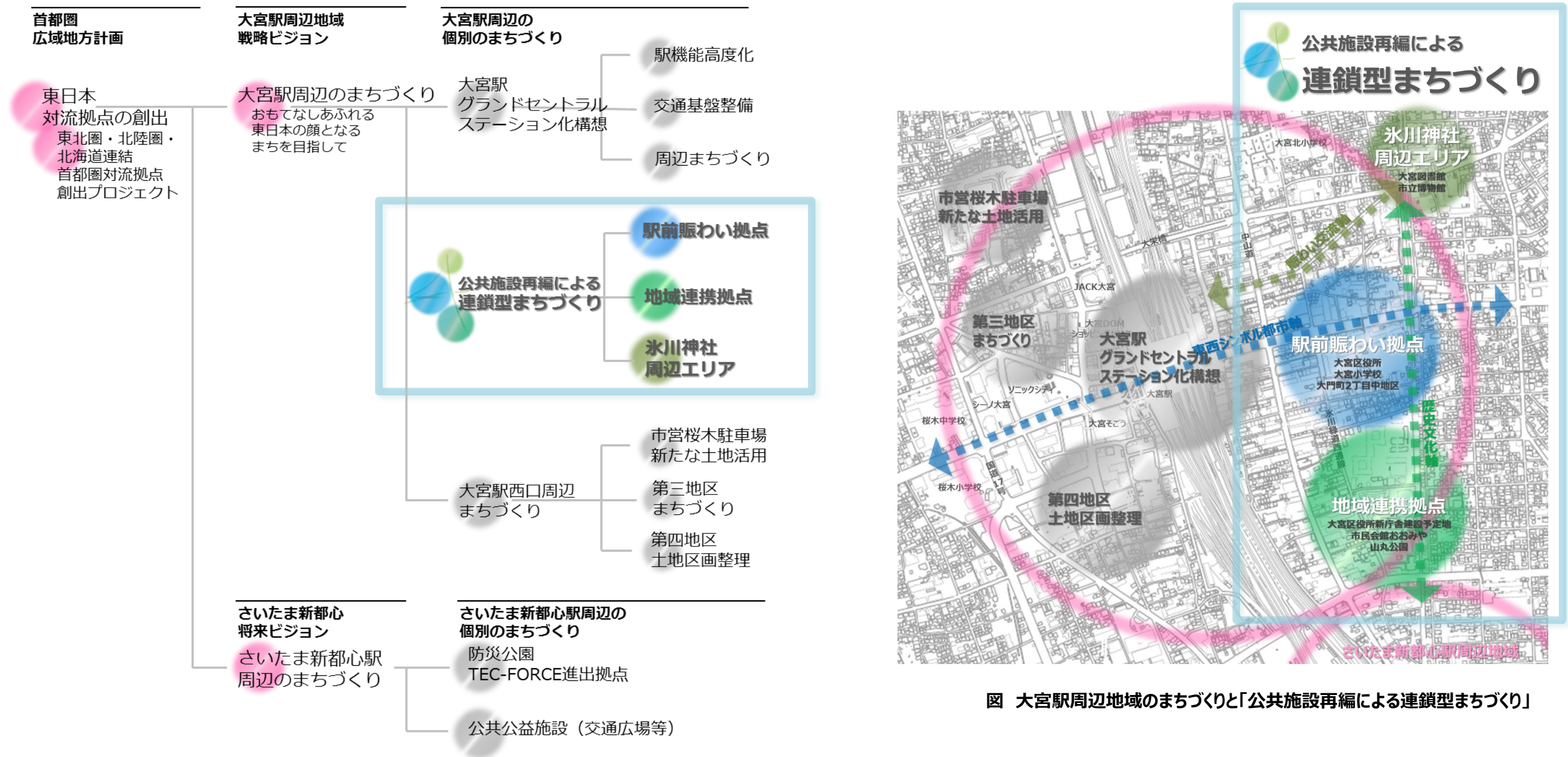


図 大宮駅周辺地域のまちづくりと「公共施設再編による連鎖型まちづくり」

(5) 本方針の構成

本方針は、右図に示すように、この序章に続き、1. から5. の5章で構成しています。

「1. 大宮駅東口のまちの特徴」では、戦略ビジョンの策定から約7年間が経過していることから、この間の社会経済状況の変化も踏まえて、地区ごとの特色を中心に、現在の大宮駅東口のまちの特徴を整理しています。

「2. 大宮駅東口周辺における公共施設等の現状」では、実際に大宮駅東口周辺にはどのような公共施設があり、その公共施設の建築年数や規模等、基礎的な情報を確認します。

「3. 公共施設再編による「連鎖型まちづくり」」では、大宮駅東口周辺における公共施設再編／公共施設跡地活用を進めるにあたっての、全体的な考え方を示しています。

「公共施設再編による『連鎖型まちづくり』』とはどのような考え方なのかを、戦略ビジョンに定められた基本的な考え方を確認します。また、『連鎖型まちづくり』に基づき進めているまちづくりの状況併せて確認します。

また、これらの考え方にに基づき、すでに決まって鑄る公共施設に移転や再編の予定について確認を行います。

「4. 公共施設再編／公共施設跡地活用の方針」では、はじめに大宮駅東口周辺の公共施設再編ならびに公共施設跡地活用の全体的な方針を位置づけ、その後、それぞれの地区が担う役割と求められる効果を定めます。

その後、地区ごとにまちづくりの段階的な行動計画（アクションプラン）を示した上で、まちづくりによって見込まれる効果について確認します。

「5. 地区別整備の推進に向けた進め方」では、公共施設再編／公共施設跡地活用に向けた地区別整備計画を策定するための検討体制や、戦略ビジョンの実現に向けた検討の進め方や市民の皆様との関わり方について示しています。

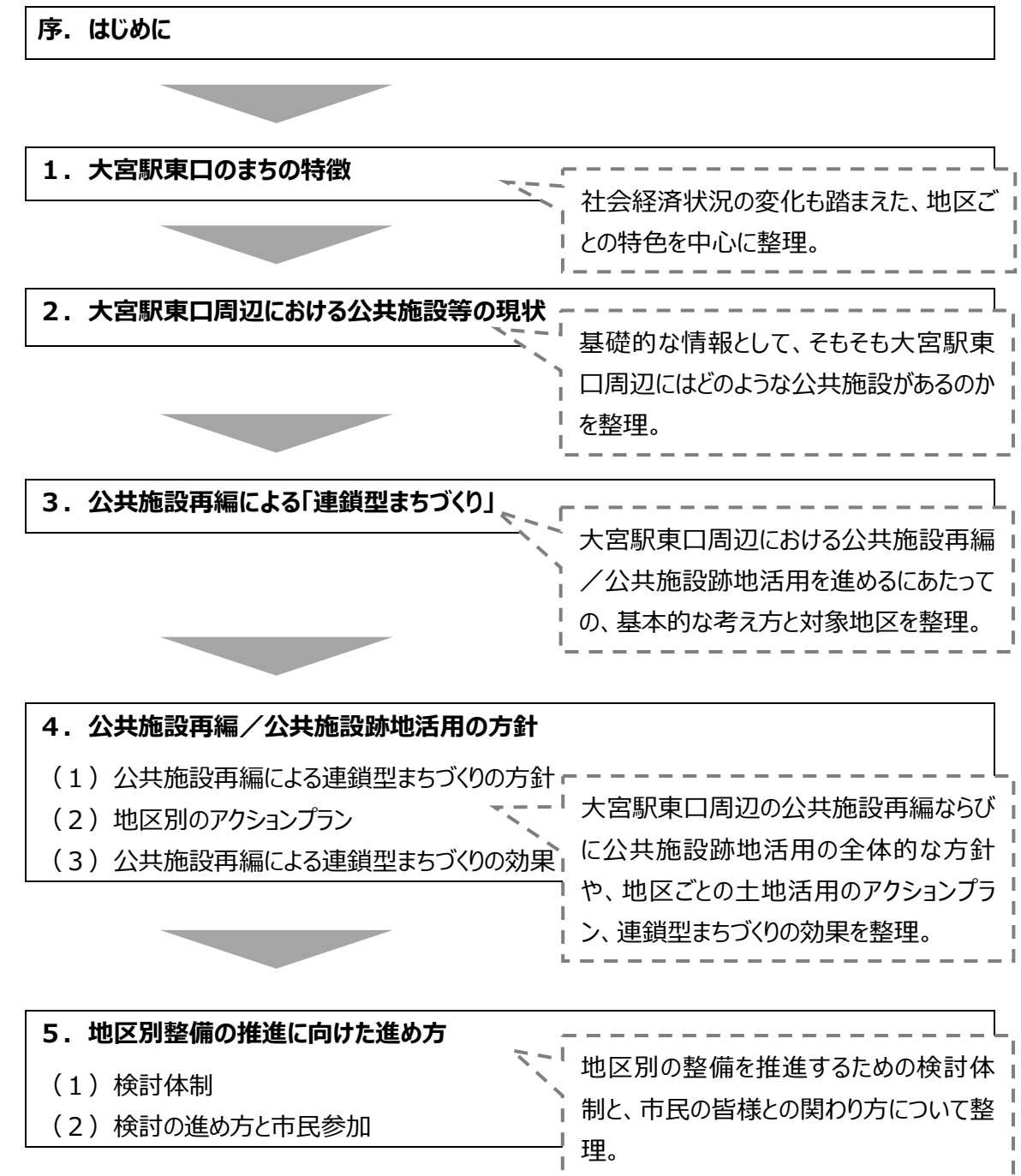


図 本方針の構成

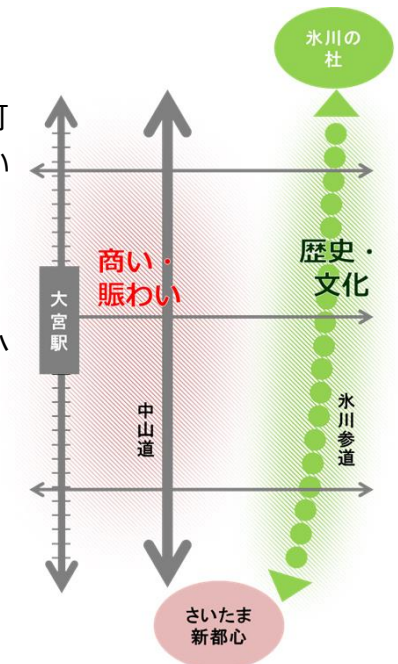
1. 大宮駅東口のまちの特徴

大宮駅東口から氷川参道周辺にかけてのエリアは、様々な特徴がコンパクトに凝縮された、文化度の高い、都市生活が満喫できる多様性のあるまちです。大宮駅を中心とした駅周辺エリアの特徴「**商い・賑わい**」と、氷川参道の沿道がかもし出す「**歴史・文化**」という、2つの個性を備えています。

大宮駅東口は、大宮区役所や大宮図書館の移転、市民会館おおみやの再開発ビルへの導入などによって、まちの姿を大きく変えようとしています。駅及び駅前周辺街区の**ターミナル街区**では、鉄道事業者や関連まちづくり団体、学識、行政などによって「大宮駅グランドセントラルステーション化構想⁵」の具体的な検討が始まっています。こうした大宮駅東口周辺のまちづくりを取り巻く環境が大きく変化中、点在する公共施設やその跡地を積極的に活用し、着実にまちを更新していくことが、これからの大宮駅東口に求められています。

【大宮駅東口のまちの構造】

- 大宮駅東口は、南北方向の中山道に沿った宿場町として発展してきました。現在のまちの主な賑わいは、駅前から中山道に沿って形成されています。
- 中山道に並行してまちの東側をはしる氷川参道は、地域が誇る、歴史・文化の薫り高い空間です。
- また、氷川参道の周辺には、大宮区役所、大宮小学校を始め、多くの公共施設が点在しています。



特徴ある大宮駅東口・氷川参道周辺エリアのまち

商い・賑わい

- 商都である大宮にとって“商い(商業・業務)”はまちの個性を決めるもつとも重要な要素です
- 東京都心や郊外の商業施設には見られない、大宮ならではの商いは、人々を魅了し、その足をまちへと向かわせ、まちの賑わいを生みだします
- 地域の魅力を活かし**個性豊かな商いを育てていく**ことが、まちの魅力を高める上で重要です

大宮駅

銀座通り・宮町一丁目

魅力的な楽しみ溢れるおもてなしエリア

- 大宮の賑わいの象徴として商業やエンターテインメントが集積しているエリア
- 多くの来街者を受け入れる大宮の賑わいの中心

ターミナル街区

商都大宮の玄関口として

多様な地域を結ぶ交通結節点

- 交通結節点：大宮駅の駅前に立地し、常に多くの人で賑わうエリア
- 駅の機能高度化や交通基盤、商業・業務機能の整備と一体的にまちづくりを推進中

大宮南銀座周辺

憩いと潤いを提供する
県内屈指の繁華街

- 多くの飲食店が立ち並び人々に憩いと潤いを提供する県下屈指の繁華街
- 娯楽のまちとして、大衆文化を育んできたまちとして、人々に交流の場を提供

一の宮通り周辺

個性豊かな店が集積する魅力的なストリート

- たくさんの美容室や古着屋など魅力的な路面店が並ぶ裏原宿的雰囲気エリア
- 大宮駅と氷川神社・大宮公園への主要動線で、文化と観光、レジャーとスポーツなど賑わいが交わるまちの主要軸

大宮区役所周辺

区役所の移転に伴い、新たな
まちづくりの起点になるエリア

- 大宮駅東口で初めての再開発がまもなく着工される注目のエリア
- 区役所の移転などによって、これからの大宮の姿を変えるまちづくりの起点

市民会館周辺

多様な機能が集積されていく
まちとまちとを継ぐ地域の拠点

- 大宮駅とさいたま新都心駅のちょうど中間に位置する2つの地域を継ぐエリア
- 現大宮区役所や現大宮図書館の移転先となり、多くの機能が集積されていくまちとまちを継ぐ新たな拠点

氷川参道

大宮の歴史と文化を紡ぎ
育む市民の大切な財産

- 緑豊かな空間が2キロに渡り続き、歴史と文化を静かに発信し、大宮の規範となる風景を形成
- 氷川の社とさいたま新都心を継ぐ、魅力的かつ荘厳な空間
- 周辺には多くの公共施設が点在し、これらの再編などによって、まちの魅力や価値をより一層高めていくことが期待されている

歴史・文化

- 門前町・宿場町として長い歴史を誇る大宮は、豊かな“都市文化”があるまちとしての誇りを持っています
- 都市文化にいつでも触れられることが、大宮の最大の個性であり魅力的なところ
- 大宮の魅力である**文化を育て、まちなかに集積**していくことが、まちの魅力を高める上で重要です

2. 大宮駅東口周辺における公共施設等の現状

大宮駅東口周辺には、氷川参道沿いを中心に多くの公共施設が立地しています。

それらの多くは、建築後40年～50年が経過し老朽化や耐震性に課題を抱える施設です。

そのため、大宮区役所を始め大宮図書館、市民会館おおみやなど既に移転・建替えなどの計画が決定している施設があります。

今後は、建替えなどの計画が決まっていない周辺の公共施設の具体的な計画や、移転後の公共施設跡地の活用の方針について整理していきます。



図 大宮駅東口周辺における公共施設の立地状況

名称	①大宮図書館駐車場 敷地面積[1,318m ²] 延床面積[1,318m ²]	②市立博物館 敷地面積[1,571m ²] 延床面積[2,330m ²]	③大宮図書館 敷地面積[2,534m ²] 延床面積[3,521m ²]
建築年次	-	昭和55年(1980年) ※築37年	昭和47年(1972年) ※築45年
機能	自動車駐車場	展示部門(常設展示室、特別展示室等)、 教育部門(講座室、ラウンジ等)、 研究部門(工作室、スタジオ、 暗室、文献史料室等)、 管理部門	図書館、会議室、視聴覚ホール、展示ホ-ル
外観			

名称	④大宮小学校 敷地面積[17,401m ²] 延床面積[8,269m ²]	⑤大門町自転車駐車場 敷地面積[1,280m ²] 延床面積[2,923m ²]	⑥大宮区役所 敷地面積[7,124m ²] 延床面積[12,897m ²]
建築年次	昭和30年(1955年) ※築62年	昭和61年(1986年) ※築31年	本館・南館 : 昭和41年(1966年) ※築51年 東館: 昭和32年(1957年) ※築60年
機能	小学校、幼児教育センター附属幼稚園併設 (平成30年3月運営終了)	自転車駐車場	区役所、建設事務所、PTA協議会、商工会 議所支所社会福祉協議会等
外観			

名称	⑦大宮中部公民館 敷地面積[472m ²] 延床面積[611m ²]	⑧市民会館おおみや 敷地面積[6,829m ²] 延床面積[7,315m ²]	③大宮図書館と⑥大宮区役所は合築・移転 予定です(H31.5予定) ⑧市民会館おおみやは、大門町2丁目中地区 再開発ビルに移転予定です(H33予定)
建築年次	昭和53年(1978年) ※築39年	昭和45年(1970年) ※築47年	
機能	会議室、レクリエーションホール、調理 室、和室 等	大ホール、小ホール、集会室 等	
外観			

4. 公共施設再編／公共施設跡地活用の方針

(1) 公共施設再編による連鎖型まちづくりの方針

大宮駅東口周辺に点在する公共用地・公的不動産を活用し、大宮駅周辺地域とさいたま新都心駅周辺地域が連携した、東日本の対流拠点都市としての機能強化を実現するまちづくりを推進します。

まちづくりの具体化に向けて、それぞれの公共施設や公共施設跡地の活用にあたり、持続的な都市の機能維持を図るため効率的且つ効果的な投資や経済合理性に配慮したまちづくりを促進します。

今後は地区ごとに整備計画を策定することになりますので、本方針において大宮駅東口周辺の公共施設再編ならびに公共施設跡地活用の全体的な方針を位置づけ、その全体方針に基づき地区ごとに土地活用の段階的な行動計画（アクションプラン）を定めます。

そして、それらの実施にあたっては、周辺公共施設整備、インフラ整備を並行して検討してまいります。

全体方針

全体方針①：東日本連携

東日本を支える拠点都市としてまちづくりを推進！

- 東日本の対流拠点都市としての役割を実現するため、東日本の各圏域との連携強化を目指します。
- さいたま新都心駅周辺地域との連携を強化し、交通ネットワーク拠点である大宮と、災害時の首都圏バックアップ拠点であるさいたま新都心との一体的なまちづくりを推進します。

全体方針②：個性の継承

個性を失わず大宮の魅力を更に強化！

- 公共施設の再編によって都市機能の強化や合理化を進めつつ、いまある個性を最大限活かします。
- まちの魅力や価値を高め、多様な価値観を受け入れる寛容性を備え、点在する個性豊かで魅力的な地域資源を活かし、地域の個性とつながり・交わりを持ったまちづくりを進めます。東日本を支える対流拠点都市としてまちづくりを推進！

全体方針③：公民連携

積極的に民間の力を導入！

- 積極的に民間事業者や民間団体の力を導入していくことや、アーバンデザインセンター大宮⁶と連携することで、行政だけでは実現困難な魅力的なまちづくりを推進します。
- 実際のまちづくりにあたっては、公民の連携にとどまらず、民間が主体となることも含め、推進していきます。

全体方針④：市民との共有

市民と将来像を共有しながら推進！

- 公共施設、そして公共用地は、大切な市民の財産であることから、その将来像を市民の皆様と共有し、想いを共にしていきます。
- 将来像の実現に向けては、各段階で適切な市民参加の手法を用い、実際の利用の主体となる市民の意見を積極的に導入します。



各地区が担う役割

氷川神社周辺エリア

氷川神社周辺という立地に相応しい魅力的な土地活用により氷川の歴史・文化を継承・発信し地域資源と調和した空間を演出するエリア

一の宮通り賑わい交流軸

氷川の杜と駅前周辺地区を結ぶ歴史・文化と観光が交わる賑わいの軸

駅前賑わい拠点

東日本の対流拠点都市の実現に向けて大宮駅GCS化構想と連携するとともに大規模な土地活用によって東日本の拠点性を高める機能の導入する拠点

中央通線東西シンボル都市軸

駅とまちを継ぐ都市活動の中心となるシンボル軸

地域連携拠点

大宮駅とさいたま新都心駅の中間に位置する公共施設の集約による都市機能の集積や地域間の連携や回遊性を向上する連携・ネットワークの拠点

氷川参道歴史文化軸

緑が連続し人々が憩う歴史と文化の軸

求められる機能

- 歴史・文化の継承と点在する魅力的な地域資源を回遊する機能向上
- 駅周辺の賑わいを氷川の杜の歴史・文化の薫りを取り込み、まちの奥行きを深める
- 多様な個性が交じり合い、都市の寛容性を高める高質な空間の形成
- 神社・公園・野球・サッカーなど、文化とレジャー・スポーツが混じりあう賑わいの創出
- 賑わいの創出に向けた商業・業務機能の拡大等、都市機能の面的な更新
- 東日本との連携を促進する広域的な交流・連携機能
- 大規模かつ複合的な土地活用による重層的で強靱な都市形成
- 交通結節機能を支える交通機能の充実
- 駅前まちづくりとの連携による大宮駅GCS整備の推進
- 地域住民に活用される歴史・文化・学習・交流機能の集積
- 憩いやゆりの空間ともなる災害時支援機能の強化
- 大宮駅周辺地域とさいたま新都心駅周辺地域の連携を強めるネットワーク機能の強化
- 静かなる賑わいの演出によって氷川の杜の歴史と文化を発信する2Km

(2) 地区別のアクションプラン

4.(1)で設定した地区について、整備計画の基礎となる基本方針及び、導入する機能やまちづくりの観点から、段階（PHASE）ごとの行動計画（アクションプラン）を示します。

駅前賑わい拠点（大宮区役所・大宮小学校地区）

駅周辺のまちづくりにあわせて、段階的な土地活用を推進します。

大宮駅東口周辺のまちづくりを連鎖的に推進するため

駅や駅前広場などの基盤整備や周辺のまちづくりと連携し、段階的な土地活用を行います。

東日本の対流拠点都市の実現に向けて、大宮駅GCS化構想と連携し

大宮区役所跡地と大宮小学校等の一体的で大規模な土地活用を図り、東日本を支える対流拠点都市の実現を目指します。



現況施設配置図／位置図

対象施設：

- ・大宮区役所（敷地面積7,124㎡、本館・南館：昭和41年建築、東館：昭和32年建築、平成31年度移転予定）
- ・大宮小学校（敷地面積17,401㎡、延床面積8,269㎡、昭和30年建築）
- ・大門町自転車駐車場（敷地面積1,280㎡、延床面積2,923㎡、昭和61年建築）
- ・大宮中部公民館（敷地面積472㎡、延床面積611㎡、昭和53年建築）



移転後の大宮区役所の敷地を利活用してまちづくりを推進します



Action 1 大宮区役所跡地の公共空間の利活用

- 大宮区役所現庁舎は耐震性に課題があることから、新庁舎の供用開始後は庁舎を解体し、その跡地は都市再生推進法人⁷等のまちづくり組織と連携した公共空間の利活用を行います。

Action 2 大宮小学校の将来の方向性について検討

- 大宮区役所跡地に隣接する大宮小学校については、将来の土地活用の具体化に備え、学校施設の再編なども視野に検討を行います。

駅周辺まちづくりと連携した土地活用



Action 3 駅周辺のまちづくりと連携した土地活用

- 駅や駅前広場などの基盤整備や周辺のまちづくりの推進に向けた土地活用を行います。

Action 4 大宮区役所周辺の公共施設の機能導入/集約等を検討

- 大宮区役所跡地と大宮小学校との一体的な土地活用に向けて、大宮中部公民館などの周辺の公共施設の機能導入/集約等を検討します。

大宮区役所跡地及び大宮小学校等の一体的な土地活用による拠点機能の強化



Action 5 大規模かつ一体的な土地活用によって、東日本の広域交流拠点の形成を実現

- 駅周辺の基盤整備が概ね完了する時期を見据え、隣接する大宮小学校と一体的に活用することを前提として、広域交流拠点の形成に向けた都市機能の導入や、シンボル都市軸の整備を行います。

地域連携拠点

(市民会館おおみや・山丸公園地区)

大宮駅東口周辺の公共施設や都市機能を集約することで

大宮駅とさいたま新都心駅の間に位置する拠点としての機能を強化し、地域間の連携を促進します。

民間事業者との連携も積極的に行い、通常時は周辺の緑と調和した憩いの空間と一体的な交流・歴史・文化等の場として

発災時には区役所機能と連携した安心安全の拠点としての整備を目指します。



現況施設配置図/位置図

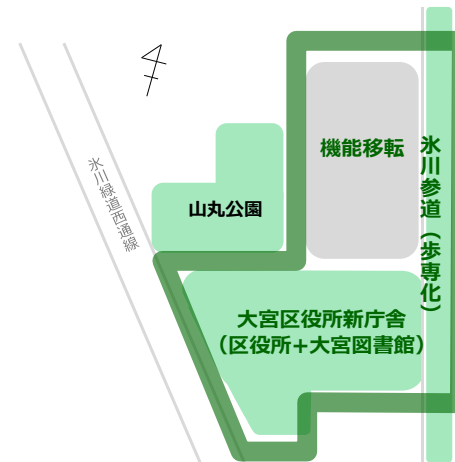
対象施設：

- ・市民会館おおみや（敷地面積6,829㎡、延床面積7,315㎡、昭和45年建築、平成33年度移転予定）
- ・山丸公園（敷地面積2,800㎡）
- ・大宮区役所新庁舎/新大宮図書館（敷地面積7,606㎡、延床面積23,657㎡）

大宮区役所新庁舎と氷川緑道西通線(南区間)の完成

PHASE 1

短期
(概ね～5年)



Action 1 氷川緑道西通線(南区間)の開通/氷川参道一部区間の歩行者専用化

- 氷川緑道西通線(南区間)が開通します。
- あわせて、氷川参道の一部区間の歩行者専用化を推進し、大宮とさいたま新都心を結ぶ歩行者の回遊性を強化します。

Action 2 大宮区役所新庁舎の供用開始(大宮図書館の移転)

- 大宮区役所新庁舎が供用を開始し、現大宮図書館は新庁舎内へと機能移転します。

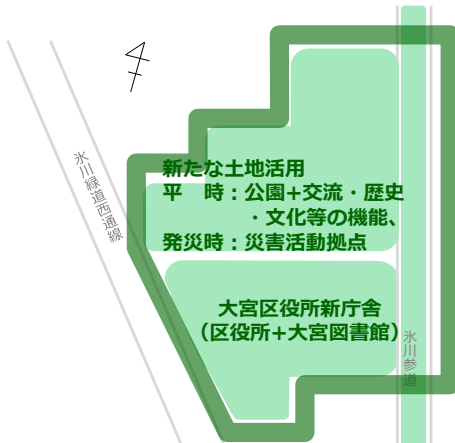
Action 3 現市民会館おおみやの移転

- 大門2丁目再開発ビルの竣工に伴い、現市民会館おおみやは再開発ビルへ機能移転。
- 老朽化や耐震性に課題を抱える現在の市民会館おおみやは解体します。

市民会館おおみや跡地と山丸公園の一体感のある活用

PHASE 2

中期
(概ね5～10年)



Action 4 市民会館おおみや跡地と山丸公園の一体感のある活用

- 市民会館おおみや跡地と山丸公園の一体感のある活用を行い、創出されたオープンスペースや区役所新庁舎と調和をとりつつ、交流・歴史・文化等の場として機能できる拠点として土地活用を行います。
- 一方、大規模災害時には地域の災害活動や支援活動の拠点となる機能導入を目指し整備を進めます。

氷川神社周辺エリア (大宮図書館・市立博物館地区)

氷川参道沿いという立地に相応しい魅力的な土地活用を行います。

検討にあたっては積極的に公民連携手法を活用し

周辺の氷川神社や賑わい交流軸、大宮公園、野球場やサッカースタジアムなどの地域資源と調和した土地活用を行います。



現況施設配置図／位置図

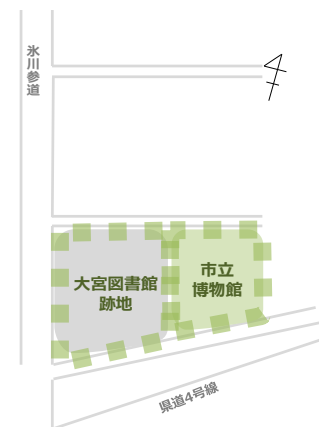
対象施設：

- ・大宮図書館（敷地面積2,534㎡、延床面積3,521㎡、昭和47年建築、平成31年度機能移転予定）
- ・大宮図書館駐車場（敷地面積1,318㎡）
- ・市立博物館（敷地面積1,571㎡、延床面積2,330㎡、昭和55年建築）

PHASE 1

短期
(概ね～5年)

大宮図書館跡地、市立博物館用地のあり方の検討



Action 1 現大宮図書館移転後の建物・敷地のあり方の検討

- 現大宮図書館機能移転後の建物及び敷地のあり方について検討を行い、必要に応じて暫定的な活用を行います。

Action 2 市立博物館用地のあり方の検討

- 市立博物館の今後のあり方について検討を行い、その方針が決定した段階で、大宮図書館跡地の活用についても、両用地の一体的活用の可能性も含め検討を行います。

PHASE 2

中期
(概ね5～10年)

大宮図書館跡地、市立博物館用地の有効活用



Action 3 大宮図書館跡地、市立博物館用地の有効活用

- 大宮図書館跡地並びに市立博物館の用地は、公民連携事業として、氷川参道沿いのエリアとして相応しい魅力ある土地活用を図ります。